

インタラクティブ・マルチメディア・インスタレーション「不思議空間」

Shizuoka University of Art and Culture
Faculty of Design
Department of Art and Science

企画概要

学生と教員の共同制作(コラボレーション)によるインタラクティブ・マルチメディア・インスタレーション作品展示である。来場者の移動をセンシングすることにより、その場限りのライブ映像・背景映像・ライブサウンド等のマルチメディア環境が変容する「不思議空間」を構成する。

企画提案実行者

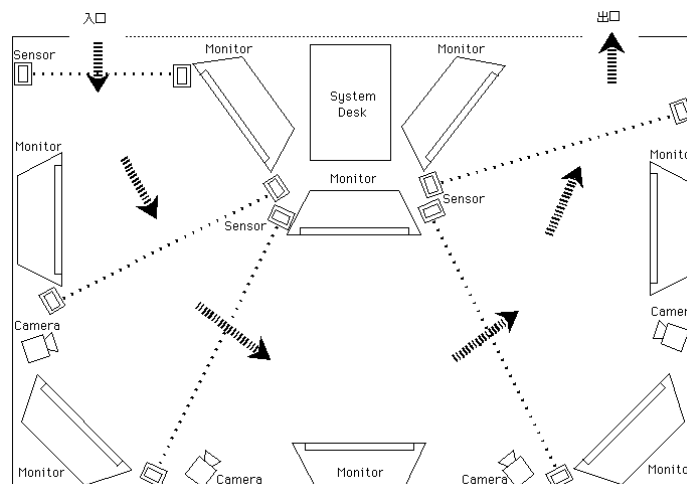
技術造形学科教員 長嶋洋一・佐藤聖徳

技術造形学科学生 北嶋めぐみ・加藤美咲・川崎真澄・林文恵・大山真澄・他

企画詳細内容、制作・実施計画

小講義室を専用の展示空間として使用する。室内には複数の大型ディスプレイとスピーカにより、常時、複数系列の映像とサウンドが提示されている。来場者は経路に従ってこれらを視聴しながら歩くが、会場に仕込まれた複数のセンシングシステムによってその動きが検出される。この情報はCCDカメラからのライブ映像、背景映像としてあらかじめ制作したビデオ映像・CG画像、さらにサウンドをライブに制御することで、来場者の動きに対応して、マルチメディア空間は刻々とその場限りの映像とサウンドを生成する。インタラクティブ性のアルゴリズムは環境"MAX"により制作する。これは固定されたビデオの再生でなく、その場に存在する者のみが体験できる参加型「不思議空間」のインスタレーション作品である。

- (1) 5/27-28の2日間、会場として232・233の両小講義室を使用する(片方は機材倉庫)。それまでの打ち合わせ、マルチメディア素材制作等は1106研究室などで行う
- (2) 230,232,234,236,330,332,334,336講義室のプラズマディスプレイ8台を5/27から借用する
- (3) マルチメディア室にあるオーディオ関係機材(管理担当:長嶋)を5/27から借用する
- (4) エンドレス映像再生のために、上記ディスプレイワゴン内のビデオデッキを数台借用する
- (5) システム全体の機器機材(コンピュータ、ビデオスイッチャ、センシングシステム、音源モジュール、CCDカメラ、"MAX"等)は長嶋が1106研究室に持っている私物を提供する
- (6) キーエンスのFA用赤外線センサモジュール数組と室内配線のためのケーブル、コード類を10万円以内の範囲で購入する。これは今後、技術造形学科の共通教材として常備し活用する
- (7) 赤外線センサを固定する一種のオブジェ制作のための材料も5万円以内の範囲で購入する
- (8) ミーティングによりコンセプト検討、作業分担(CG制作、音響制作、オブジェ制作、ソフト制作)、スケジュール等を決定して共同でシステム試作を進めていく
- (9) 前日5/27に準備。当日(11:00-15:00展示予定)は学生スタッフが交代制で常時待機する



以上